

■川路聖謨 たたき上げで大出世した能吏で、機転の利いた応接で日露和親条約を実現し、江戸開城を聞いて自殺した。

かわじとしあきら

宣長没・・・1801＝ 豊後国日田で、地方の小役人代官所属吏内藤歳由の子に生まれる。

げんろ来航・1804＝ 3歳：母に伴われて江戸に出るなど、貧困の中、両親の極めて厳格な教育を受けて育つ。幼時に疱瘡を患い、あばたが顔に多く残ることになった。幼時より頭が良く、子の出世を願う父は、

つげ船狼藉・1807＝ 6歳：この年、千島列島の測量に訪れた海軍のディアナ号艦長ゴローヴニンが国後島で捕縛され、箱館に幽閉、
フェート号事件 1808＝ 7歳：江戸に出て御家人株を入手し、幕府徒歩組に編入された父から、「四書」素読以降、猛烈な教育を受け、

・・・・・・1810＝ 9歳：

高田屋拿捕・1812＝11歳：御家人小普請組川路光房の養子になって、幕府官僚になる端緒を得るとともに、頭の良さを発揮し始め、
浮世床・・・1813＝12歳：この年、高田屋嘉兵衛らの尽力で、ゴローヴニンは解放され帰国。元服。川路家を継ぎ小普請組に属す。
算術が得意だったことから、現在なら、財務・農水・国交省を兼ね、裁判所の役割をもするような、

杉田玄白没・1817＝16歳：*勘定所の筆算吟味(算術算盤の出来を判定する試験)に合格、勘定方勤務になったばかりでなく、合理的な思考が奇跡的な出世の道を開いていくことになる。

水野忠成老中1818＝17歳：

群書類従完結1819＝18歳：与力の娘えつと結婚する。

伊能図完成・1821＝20歳：妻えつが病死。

英船浦賀来航1822＝21歳：評定所留役の娘やすと再婚。

シボト来日・1823＝22歳：評定所留役、

異国船打払令1825＝24歳：日本近海に、ロシアをはじめ外国船の来航が目立つようになり、異国船打払令が発布される、

日本外史・・・1827＝26歳：_寺社奉行吟味物調役、

シボト事件・1828＝27歳：

富嶽三十六景1831＝30歳：_勘定組頭格、

天保大飢饉始1833＝32歳：_御目見以上と、役人の階段を一つずつ上るうち、

滑稽+人情本 1835＝34歳：この年、妻やすを離縁(それまでに2男2女をもうける)、与力の娘かねと再婚するが、翌年離縁。*出石藩主が子の無いまま急死したことから、筆頭家老が、自らの子を藩主にして家乗取ろうと、幕府老中らに賄賂を贈って画策するうちに明るみになった、のちに江戸三大お家騒動の一つとして知られるようになる仙石騒動の裁きを命じられ、慎重に調査して核心に迫る詳細な調査報告を作成、それを元に評定が行われ、出石藩は半分近くに減封、筆頭家老は獄門、賄賂をとっていた老中は失脚するという裁きになったが、いくつかの案を出し、合議によって裁定するようにしたこと、つまり“資料作り”の上手さが高く評価され、將軍家斉からは特別に褒美が出、勘定吟味役に抜擢され、

・・・・・・1836＝35歳：年貢の徴収、金銭の出納、貨幣の改鑄などを監査する_目の回るような忙しさのなか、毎日を細かく時間割して文武いずれもスキルアップ、17年ぶりに学問も再開、諸師について、朱子学、陽明学、国学、歴史、蘭学と幅を広げて行く。’人間は忙しい時ほど余暇を見つけないと心労が蓄積し能率が低下する’と述べているように、学ぶことが余暇だったのである。近年は海外に関する案件や訴訟が増大していることを知ると、もっと外国のことを知るべく、生の外国情報を得ようと、古河藩家老の蘭学者で、恐るべく広い情報網を持った鷹見泉石に学び始め、思想家で兵学者の佐久間象山と交わり、

大塩平八郎乱1837＝36歳：江戸で一番詳しいという(蛮社(尚齒会))を訪れ、渡辺華山と意気投合、高野長英にも会って情報収集、

適塾+ポン・1838＝37歳：大工頭の娘さとと再々婚、最後の妻になっただけでなく、留守がちな夫との間に、ユーモア溢れる交換日記を遺した川路高子として歴史に名を刻むことになる。

蛮社の獄・・・1939＝38歳：_華山手製の短銃を贈られるまでになるが、蛮社の獄となつて、華山は蟄居となり、

勸進帳初演・1840＝39歳：_自殺に至る。危うく連座を免れ、初の奉行職佐渡奉行に任せられ、

天保改革始・1841＝40歳：江戸に戻り、_小普請奉行を経て、

順天堂始・・・1843＝42歳：_普請奉行とキャリアを積んで行くが、

阿部正弘首座1845＝44歳：

孝明天皇・・・1846＝45歳：上司だった老中首座水野忠邦が失脚したため、_突然、序列は低く江戸からも遠い奈良奉行に左遷され、人生初の挫折。仕事は、大和の国の行政・司法を掌り、寺・神社の管理をするものであったが、ここでも、’つらい時こそスキルアップ’の精神を発揮、国学を学んでいたことから、本来業務と離れた天皇陵の調査に乗り出す。とくに神武天皇陵を特定すべく、村人らに聞き取り調査、それが畷傍山東北陵であると確信、

北斎没・・・1849＝48歳：「神武御陵考」を著わしたばかりか、市井の民の視線で事件に立ち向かう日記「寧府紀事」を書き続け、桜と楓の植樹によって、すさんだ世相の改善に努めるうち、

尊徳報徳論・1851＝50歳：_大坂町奉行に引き立てられ、

万次郎帰国・1852＝51歳：_ついに、たたきあげでは異例の、勘定奉行(公事方・訴訟担当)に栄転、華々しく返り咲いた直後、

ペリー来航・1853＝52歳：浦賀に来航したペリーが開国を要求、ひとまず退去したのに続いて、_長崎に、プチャーチンを代表とするロシア使節が来航して開国を要求、その露使応接掛に抜擢され、老中首座阿部正弘の’相手の要求をかわして穏便に追い返せ’の指示を受けて現地に赴くと、大変な交渉になるその皮切りに、西洋では大受けするジョークとなる自分の妻の話を持ち出して笑いを誘い、以後、交渉するうち、プチャーチンの秘書ゴンチャロフが’その聡明さ、一言一句、物腰までが、良識と機知と炯眼と練達を表している’と記録したように、ロシア側から驚かされて気に入られ、自らの命を懸ける覚悟までした、最も難しいロシアとの国境交渉には、鷹見泉石に学んで以来、海外情報を細かくチェックしてきたことが生きて、国後島で拘束されたロシア海軍艦長ゴローヴニンが遺した記述を持ち出して、結論は先送り、プチャーチンはひたすら引き揚げ、

開国開港・・・1854＝53歳：日米和親条約締結を知ったロシアは、_日露和親条約を結ぶべく、今度は下田に来航、

安政大地震・1855＝54歳：_対応すべく下田取締掛となった矢先、大地震と大津波が起こって、下田はほぼ全滅、プチャーチンは漂流する日本人を救助し、負傷者を治療、ロシア人を見る目は大きく変わる。艦船も津波で沈没して帰国できなくなったロシア人の衣食住を手配、ゴンチャロフのちに、その時の軍人の証言’日本人たちは自分たちも被災しているのに手を尽くしてくれる’と記録している。さらに、ロシア人の帰国のため、同時に、西洋船の技術習得のため、英仏など、ロシアに敵対する国に知られぬよう、伊豆の駿河側戸田で、ロシア人の指導のもと、大工たちの手による新船建造に着手、この間も交渉は続けられ、日露和親条約締結に至り、国境については、当面、現状維持とされた。プチャーチンが、’記念に肖像写真を撮影してあげたい’と言うと、’年を取って妖怪のようになり、とても日本の代表にはなれない’と最後まで機知を忘れず、ようやく緊張から解放されたのである。阿部正弘が、対米交渉に登用した岩瀬忠震や対英交渉に登用した外国奉行永井尚志ら、幕末とはいえ、徳川幕府の人材は、なお優れたものがあつたのである。

五ヶ国条約・1858＝57歳：種痘所建設用地に朝野地を提供。_奈良奉行当時の天皇陵調査によって朝廷に知られていたことから、日米修好通商条約勅許奏請のために上洛する老中堀田正睦に随行するという榮譽ある役に抜擢されたのが最後の榮譽で、將軍継嗣問題から、一橋派の肅清が始まり、西丸留守居に左遷され、「遺書」を書き始める。

安政の大獄・1859＝58歳：老中阿部正弘、堀田正睦につらなる開明派幕吏の一人とみなされて、_さらに、隠居・差控となり、

桜田門外変・1860＝59歳：井伊直弼暗殺で、

8月18日政変 1863＝62歳：_外国奉行に挙用されるも、すぐ辞職して、隠居。

禁門の変・・・1864＝63歳：_中風の発作起こり、左半身不随となる。

薩長同盟・・・1866＝65歳：中風の発作が再発、

明治維新・・・1868＝67歳：辞世を詠み、_江戸開城のうわさに、割腹の上、短銃で自殺した。日本初のピストル自殺と言われる。

吉川弘文館人物叢書、「日本史重要人物101」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、歴史有名人の死の瞬間、出久根達郎「桜奉行」。NHK「先人たちの底力 知恵泉」の「幕末の“名奉行”川路聖謨 交渉術はどう培う」で大幅追補、